

## 平成 26 年度実施施策に係る事前分析表

(文部科学省 26-9-1)

<b>施策名</b>	ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進及び倫理的課題等への取組
<b>施策の概要</b>	「生命現象の統合的理解」を目指した研究を推進するとともに、「先端的医療の実現のための研究」等の推進を重視し、国民への成果還元を抜本的に強化する。さらに、生命倫理問題等が及ぼす倫理的・法的・社会的課題に対し、研究の進展状況を踏まえた施策への反映、研究者等への法令等の遵守の徹底等を通じ、最先端のライフサイエンス研究の発展と社会の調査を目指す。

<b>達成目標 1</b>	「社会に貢献する脳科学」の実現を目指し、精神・神経疾患の克服に向けた取組等、社会への応用を明確に見据えた脳科学研究を戦略的に推進する。						
<b>成果指標 (アウトカム)</b>	基準値	実績値					目標値
	一年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
① 成果の活用状況	—	—	—	—	自閉症患者の脳内でミクログリアの活性化が起こっていることを発見。自閉症発症メカニズムの理解が進むことが期待される	アルツハイマー病の原因タンパク質の蓄積を制御する遺伝子発見し、その蓄積に関するメカニズムを解明。画期的な治療法の開発につながることを期待される。	蓄積された知見、技術の医学・薬学への貢献、産業応用
年度ごとの目標値	—	—	—	—	—	—	—
<b>【目標・指標の設定根拠等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本再興戦略改訂 2013 (平成 26 年 6 月 24 日 閣議決定)</li> <li>・ 健康・医療戦略 (平成 26 年 7 月 22 日 閣議決定)</li> </ul>							

<b>達成目標 2</b>	革新的がん医療技術に関する研究などを通じ、先端的医療の実現に資する知見の蓄積、技術の開発、また、それに必要な環境が整備される。						
<b>成果指標 (アウトカム)</b>	基準値	実績値					目標値
	一年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	27 年度
① 次世代がん研究戦略プロジェクト採択課題のうち、前臨床若しくは臨床研究段階へ移行した有望なシーズ数 (積算)	—	—	—	—	0 件	0 件	39 件
年度ごとの目標値	—	—	—	—	—	—	—

成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	一年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	27年度
② 分子イメージング研究戦略推進プログラム採択課題のうち、臨床に向けたPOC (Proof of Concept) の取得数 (積算)	0件	—	—	0件	4件	8件	8件
年度ごとの目標値	/	—	—	—	—	—	/
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	22年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	27年度
③ iPS細胞等幹細胞を用いた課題の臨床研究への移行 (23年度実績: 0件/目標: 平成25年度・体性幹細胞を用いた研究の臨床研究への移行、平成29年度・iPS/ES細胞を用いた研究の臨床研究への移行)	0件	0件	0件	0件	0件	3件 (iPS 1、体性幹細胞 2)	体性幹細胞を用いた課題の臨床研究への移行 (平成29年度は、iPS/ES細胞を用いた研究の臨床研究への移行)
年度ごとの目標値	/	—	—	—	—	—	/
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	22年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	30年度まで
④ 革新的バイオ医薬品創出基盤技術開発事業 (H26年度新規) において、企業等へ移転した世界初の次世代バイオ医薬品のシーズ設計・創出技術数	/	/	/	/	/	/	1件以上
年度ごとの目標値	/	—	—	—	—	—	/

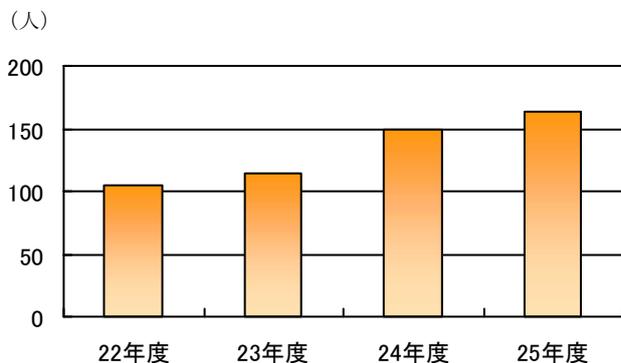
**【目標・指標の設定根拠等】**

- ・日本再興戦略改訂 2013 (平成 26 年 6 月 24 日 閣議決定)
- ・健康・医療戦略 (平成 26 年 7 月 22 日 閣議決定)
- ・科学技術イノベーション総合戦略 2014 (平成 26 年 6 月 24 日 閣議決定)

達成目標 3	新興・再興感染症克服技術など、社会の安全・安心の確保に必要な知見の蓄積、人材の養成等が図られる。						
活動指標 (アウトプット)	基準値	実績値					目標値
	22年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	毎年度
① 事業に参画した研究人材の数	104件	—	104人	114人	149人	163人	対前年度比増
年度ごとの目標値	/	—	—	104人より増	114人より増	149人より増	/

【目標・指標の設定根拠等】

○事業に参画した研究人材の数（累積）



達成目標 4	研究の発展・動向を踏まえ、生命倫理に関する法令・指針に基づいた規制を適切に実施する。						
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	22年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	毎年度
① 指針の違反件数	0件	0件	0件	0件	0件	1件（他府 省と共管）	指針違反事 案が発生し た場合は適 切に処理す る。
年度ごとの目標値	/	—	—	—	—	—	/

【目標・指標の設定根拠等】

生命倫理に関する法令・指針に基づいた規制を適切に実施するため、指針不適合事案の発生件数を成果指標とし、不適合事案が発生しないことを目標値としている。

達成目標 5	被災地域の医療復興に貢献するとともに、予防医療・個別化医療等の次世代医療実現に資する知見の蓄積、技術の開発、また、それに必要な環境が整備される。						
活動指標 (アウトプット)	基準値	実績値					目標値
	一年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	28年度
① 健康調査の実施数 (復興特会)	—	—	—	0人 ※25年度 からの健康 調査のため の体制整備 を実施	0人 ※25年度 からの健康 調査のため の体制整備 を実施	23,643人 (26年2月 現在)	150,000人
年度ごとの目標値	/	—	—	—	—	—	/
活動指標 (アウトプット)	基準値	実績値					目標値
	一年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	28年度
② 協力者から得られたゲノム情報の解析数（一般会計）	—	—	—	—	—	1,000検体	日本人標準 ゲノムセッ ト完成
年度ごとの目標値	/	—	—	—	—	—	/

【目標・指標の設定根拠等】

- ・日本再興戦略改訂 2013（平成 26 年 6 月 24 日 閣議決定）
- ・健康・医療戦略（平成 26 年 7 月 22 日 閣議決定）
- ・科学技術イノベーション総合戦略 2014（平成 26 年 6 月 24 日 閣議決定）

（参考：医療分野研究開発推進計画（平成 26 年 7 月 22 日 健康・医療戦略推進本部決定）

達成目標 6	生態が持つ複雑なメカニズムの解明を中心とする基礎研究を国際的に共同して推進する。						
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	一年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	毎年度
① 研究グラント受賞者のうち、ノーベル賞を受賞した研究者の数	平成 25 年度までに 23 名がノーベル賞を受賞(医学生理学賞 15 名, 化学賞 7 名, 物理学賞 1 名)						
年度ごとの目標値		—	—	—	—	—	

【目標・指標の設定根拠等】

- ・第 4 期科学技術基本計画（平成 25 年 6 月 14 日 閣議決定）
- ・グローバル人材育成戦略（平成 25 年 6 月 14 日 関係大臣申合せ）
- ・東日本大震災を踏まえた今後の科学技術・学術政策の在り方について（建議）  
（平成 25 年 1 月 17 日 科学技術・学術審議会）
- ・第 4 期科学技術基本計画を踏まえた科学技術国際活動の戦略的展開について（報告書）  
（平成 25 年 1 月 科学技術・学術審議会国際委員会）
- ・科学技術イノベーション総合戦略（平成 25 年 6 月 7 日 閣議決定）

達成手段 (事業・税制措置・諸会議等)							
名称 (開始年度)	予算額計 (執行額)		当初 予算額	事業概要	関連 する 指標	行政事 業レビ ューシ ート番 号	担当課
	24年度	25年度	26年度				
脳科学研究戦略推進プログラム・脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト (平成 20 年度)	3,487 (3,488)	3,488 (3,478)	5,483	「心身の健康を維持する脳の分子基盤と環境因子」、「精神・神経疾患の克服を目指す脳科学研究」、「脳科学研究を支える体系的・集約的な情報基盤の構築」、「BMI 技術」、「霊長類モデル」についての課題及び「革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト」を実施。	1	0233	研究振興局ライフサイエンス課
次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム (平成 23 年度)	3,635 (3,637)	3,629 (3,629)	5,929	次世代のがん医療の確立に向けて、革新的な基礎研究の成果を厳選し、診断・治療薬の治験等に利用可能な化合物等の研究を推進する。	2-①	0238	研究振興局研究振興戦略官付
革新的バイオ医薬品創出基盤技術開発事業 (平成 26 年度新規事業)	—	—	1,100	我が国のバイオ医薬品の国際競争力を強化するため、我が国の強みであるケミカルバイオロジー、計算科学、糖鎖工学等を融合し、細胞内標的を創薬ターゲットとする技術等、世界初の次世代バイオ医薬品の創出基盤技術開発を実施する。	2	新 0023	研究振興局ライフサイエンス課
ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム	—	—	1,630	ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム (HFSP) は、学際性、国際性、若手重視の基本理念に	2	新 0024	研究振興戦略官付

(平成 26 年度新規事業)				基づく、生体の持つ優れた機能解明に寄与する基礎研究に対する国際共同助成制度である。国際 H F S P 推進機構に経費を拠出し、生体が持つ複雑な機構解明を中心とする基礎研究を国際的な共同研究を通じて促進することを目的とする。			
感染症研究国際ネットワーク推進プログラム (平成 22 年度)	1,721 (1,720)	2,019 (2,017)	1,828	感染症が人類に対する脅威となっていることに鑑み、これまでに整備した新興・再興感染症研究拠点の更なる充実・強化を図ることにより、永続的な研究活動を進める基盤を確立する。また、国内外の研究機関との連携を深め、感染症対策に資する知見の集積、人材育成等を図ることにより、国際貢献を果たしつつ、日本国民ひいては人類の健康と安全を守ることに寄与する。	3	0235	研究振興局研究振興戦略官付
分子イメージング研究戦略推進プログラム (平成 22 年度)	500 (499)	500 (499)	675	生体内分子の機能や投与薬物の動態などを生物が生きたままの状態画像化する分子イメージング技術を活用し、創薬プロセスの革新及び疾患診断の高度化等を図る。	2-②	0236	研究振興局研究振興戦略官付
オーダーメイド医療の実現プログラム (平成 25 年度)	1,560 (1,832)	1,430 (1,420)	1,830	疾患の予防、副作用の回避、効果的な薬剤投与等、個人の遺伝情報に応じた医療である「オーダーメイド医療」の実現に貢献するため、世界最大の疾患ゲノムバンクである「バイオバンク・ジャパン」の活用により、疾患や薬剤に関連するゲノム解析等を実施する。	2	0237	研究振興局研究振興戦略官付
ライフサイエンス研究開発推進経費 (平成 23 年度)	35 (28)	35 (24)	55	ライフサイエンス分野の研究開発の推進全体に必要な経費及び生命倫理・安全対策に関わる諸問題に対する調査検討及び法令に基づく審査等を実施する。	4	0232	研究振興局ライフサイエンス課
東北メディカル・メガバンク計画(復興関連事業) (平成 23 年度)	5,607 (復興特会(復興庁)) (1,714)	3,936 (7,776)	3,343	宮城県及び岩手県を中心とした被災地の住民を対象として健康調査を実施し、被災地の住民の健康管理に貢献するとともに、協力者の生体試料、健康情報等を収集してバイオバンクを構築し、ゲノム情報等と併せて解析することにより、個別化予防等の基盤を形成する。	5	0244	研究振興局ライフサイエンス課
東北メディカル・メガバンク計画(一般会計) (平成 23 年度)	—	299 (299)	299	宮城県及び岩手県を中心とした被災地の住民を対象として健康調査を実施し、被災地の住民の健康管理に貢献するとともに、協力者の生体試料、健康情報等を収集してバイオバンクを構築し、ゲノム情報等と併せて解析することにより、個別化予防等の基盤を形成する。	5	0239	研究振興局ライフサイエンス課
独立行政法人科学技術振興機構運営費交付金に必要な経費(再生医療実現拠点ネットワークプログラム)【再掲】	—	122,952 百万円の内数 (122,952 百万円の内数)	119,896 百万円の内数	国際競争が激化している i P S 細胞等を使った再生医療・創薬について、我が国のアドバンテージを生かし、世界に先駆けて臨床応用をするべく研究開発を加速する。具体的には、臨床応用を見据えた安全性・標準化に関する研究、再生医療用 i P S 細胞ストックの構築、疾患・組織別に責任を持って再生医療の実現を目指す研究体制の構築等を実施するために係る経費について安定的に確保するとともに、より柔軟な予算執行ができる科学技術振興機構運営費交付金事業とすることで、機動的な研究費の投入や、研究支援人材のより安定的な確保を可能とし、i P S 細胞等の実用化を推進する。	2	0183	研究振興局ライフサイエンス課

ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム (平成 23 年度)	1,354 (1,354)	1,371 (1,371)	1,371	「国際機関への拠出等」のうち、本事業は、国際H F S P 推進機構の活動である、①国際的・学際的共同研究チームに対する研究助成（研究グラント）、②若手研究者が国外研究を行うためのフェローシップ、③フェローシップ受賞者の母国での独立を支援するキャリア・ディベロップメント・アワード、④受賞者会合等の実施に必要な経費を拠出するものである。	6	0208	研究振興局研究振興戦略官付
--	------------------	------------------	-------	--	---	------	---------------

(参考) 関連する独立行政法人の事業

事業名 (開始年度)	予算額計 (執行額)		当初 予算額	事業概要	関連 する 指標	行政事業 レビュー シート番号	担当課
	24年度	25年度	26年度				
独立行政法人放射線医学総合研究所運営費交付金に必要な経費 (平成 13 年度)	<11,822 (うち復興特会(文科省)1,430)>の内数	<10,289 (うち復興特会(文科省)572)>の内数	<9,793 (うち復興特会(文科省)469)>の内数	放射線利用と放射線規制科学を総合的に推進することにより、放射線医学に関する科学技術水準の向上を目指す。 (1)放射線のリスクを計る「放射線安全研究」 (2)万が一の原子力災害で国民を被ばく事故から救う「緊急被ばく医療研究」 (3)他の治療法では治療が困難ながんを炭素線で治す「重粒子線を用いたがん治療研究」 (4)体を傷つけずに放射線で生命活動を見る「分子イメージング手法を用いた疾患診断研究」	1 ①	0240	研究振興局研究振興戦略官付
独立行政法人放射線医学総合研究所施設整備に必要な経費 (平成 13 年度)	(3,910 (うち復興特会(文科省)1,000))の内数	4,472	262	(独)放射線医学総合研究所の業務を実施する上で必要な施設の設置又は改造に要する費用を補助する。	1 ①	0241	研究振興局研究振興戦略官付
独立行政法人理化学研究所設備整備費補助 (平成 24 年度)	6 (6)	<4,894> の内数 (<4,891> の内数)	<2,275> の内数	科学技術に関する試験及び研究等の業務を総合的に行うことにより、科学技術の水準の向上を図るため、理化学研究所の設置する研究所設備の整備充実を図る目的で、研究所が行う研究所設備の整備に要する経費に対し補助を実施する。	1 ①	0243	研究振興局基礎研究振興課
独立行政法人理化学研究所運営費交付金に必要な経費【7-2 再掲】	<57,512>の内数 ( <57,512>の内数)	<55,330>の内数 ( <55,330>の内数)	<53,119>の内数	○脳科学総合研究事業 我が国の脳科学を総合的にけん引する中核的研究機関として役割を果たすとともに、分子から神経回路を経て心に至る脳の仕組みを解読するといった科学の飛躍的進歩をもたらす研究を推進する。 ○植物科学研究事業 代謝物解析と遺伝子探索に重点をおいて、植物の生長、形態形成、環境応答などの植物に特有な制御・応答メカニズムの解明研究を実施し、植物の質的・量的な生産力の向上を目指す。また、遺伝子組み換え作物の安全性評価に資するため、在来種との実質同等性を解析するための基盤を整備する。 ○発生・再生科学総合研究事業 細胞治療・組織再生など医学的応用につながるテーマの基礎的・モデル的研究を効率的に推進し、得られる成果を広く応用分野に発信するとともに、発生生物の新たな展開に貢献する。 ○免疫・アレルギー科学総合研究事業 現代社会が抱える重要課題の一つである免疫・アレルギー疾患の基礎的・総	1 ①	0193	研究振興局ライフサイエンス課

			<p>合的解明の研究を通し、免疫・アレルギー疾患等の克服に貢献に資する。基礎基盤研究を通して、疾患発症原理を明らかにし、制御基盤技術の確立や研究成果の応用を加速するためのプラットフォームの構築を目指す。</p> <p>○ゲノム医科学研究事業（遺伝子多型研究事業）</p> <p>ヒトゲノムの遺伝子領域におけるSNP（一塩基多型：個人ごとの塩基配列の違い）情報を活用し、関節リウマチ等の疾患や薬剤応答に関する遺伝子を同定し、創薬をはじめとする新しい治療法や診断法等の開発に資する。</p> <p>○分子イメージング事業</p> <p>低分子化合物や高分子化合物に対する放射性元素による標識合成の技術開発、生活習慣病や難治性疾患の予知・診断・治療薬の開発へつなげる研究開発、分子イメージング技術の高度化を目指した開発等を行う。また、分子イメージング技術を適用した新たな創薬プロセスを推進するための技術的基盤を確立する。</p> <p>○ライフサイエンス基盤研究領域事業</p> <p>遺伝子とタンパク質等のレベルで生命現象を理解するオミックス基盤研究領域及び生命分子システム基盤研究領域、並びに膨大な実験データの利用技術を研究する生命情報基盤研究部門からなるライフサイエンス基盤研究を推進する。</p>			
--	--	--	---	--	--	--

施策の予算額・執行額					
（※政策評価調書に記載する予算額）					
区分		24年度	25年度	26年度	27年度要求額
予算の状況 （千円） 上段：単独施策に係る予算 下段：複数施策に係る予算	当初予算	16,294,312 ほか復興庁一括 計上分	11,873,012 ほか復興庁一括 計上分	18,828,393 ほか復興庁一括 計上分	65,343,691 ほか復興庁一括 計上分
		5,606,500	3,935,516	3,342,904	3,242,904
		<172,185,217> ほか復興庁一括 計上分	<188,812,214> ほか復興庁一括 計上分	<182,872,115> ほか復興庁一括 計上分	<187,966,272> ほか復興庁一括 計上分
		<4,383,269>	<3,925,706>	<2,767,625>	<1,230,755>
	補正予算	20,946,548 ほか復興庁一括 計上分 0	6,957,775 ほか復興庁一括 計上分 0	0	
		<71,076,426> ほか復興庁一括 計上分<0>	<6,830,142> ほか復興庁一括 計上分<0>	<0>	
	繰越し等	Δ15,736,888 ほか復興庁一括 計上分	25,353,918 ほか復興庁一括 計上分		
		Δ3,868,558	3,840,407		
	合計	<Δ11,766,417> ほか復興庁一括 計上分<0>	<Δ471,682> ほか復興庁一括 計上分<0>		
		21,503,972 ほか復興庁一括 計上分	44,184,705 ほか復興庁一括 計上分		
		1,737,942	7,775,923		
		<231,495,226> ほか復興庁一括 計上分	<195,170,674> ほか復興庁一括 計上分		
		<4,383,269>	<3,925,706>		

執行額（千円）	21,444,175 ほか復興庁一括 計上分	43,994,524 ほか復興庁一括 計上分		
	1,713,528 <231,475,029> ほか復興庁一括 計上分	7,768,384 <195,149,012> ほか復興庁一括 計上分		
	<4,383,269>	<3,925,706>		

施策に関する内閣の重要政策（施政方針演説等のうち主なもの）		
名称	年月日	関係部分抜粋
第4期科学技術基本計画	平成23年8月19日	<p>II. 将来にわたる持続的な成長と社会の実現</p> <p>2. 震災からの復興、再生の実現</p> <p>（2）重要課題達成のための施策の推進</p> <p>i) 被災地の産業の復興、再生</p> <p>新しい産業の創成と雇用の創出に向けて、被災地を中心に、再生可能エネルギーや医療・介護、情報通信技術等の領域における研究開発等の取組を促進する。</p> <p>4. ライフイノベーションの推進</p> <p>（2）重要課題達成のための施策の推進</p> <p>i) 革新的な予防法の開発</p> <p>（中略）東日本大震災を受けて、被災地の人々を中心に長期間の健康調査を行い、疾病等の予防法開発に活用する。（中略）</p> <p>さらに、認知症等による社会的、経済的な損失や負担の大きさを踏まえ、積極介入研究を推進することにより、認知症等の発症防止や早期診断、進行の遅延技術等の研究開発を推進する。</p> <p>ii) 新しい早期診断法の開発</p> <p>iii) 安全で有効性の高い治療の実現</p> <p>新薬の開発においては、動物疾患モデルやiPS細胞による疾患細胞等を駆使して疾患や治療のメカニズムを解明し、新規創薬ターゲットの探索を行う必要があり、そのために生命科学の基礎的な研究を充実、強化する。（中略）</p> <p>疾患の治療や失われた機能の補助、再生につながる再生医療に関しては、iPS細胞、ES細胞、体性幹細胞等の体内及び体外での細胞増殖・分化技術を開発するとともに、その標準化と利用技術の開発、安全性評価技術に関する研究開発を推進する。</p> <p>iv) 高齢者、障害者、患者の生活の質（QOL）の向上</p> <p>高齢者や障害者のQOLの向上や介護者の負担軽減を図るため、生活支援ロボットやブレインマシンインターフェース（BMI）機器、高齢者用のパーソナルモビリティなど、高齢者や障害者の身体機能を代償する技術、自立支援や生活支援を行う技術、高度なコミュニケーション支援に関する技術、更には介護者を支援する技術に関して、安全性評価手法の確立も含めた研究開発を推進する。</p> <p>III. 我が国が直面する重要課題への対応</p> <p>2. 重要課題達成のための施策の推進</p> <p>（3）地球規模の問題解決への貢献</p> <p>i) 地球規模問題への対応促進</p> <p>さらに、新興・再興感染症に関する病原体の把握、予防、診断、治療に関する研究開発を推進する。</p>
日本再興戦略	平成25年6月14日	<p>第II. 三つのアクションプラン</p> <p>二. 戦略市場創造プラン</p> <p>テーマ①：国民の「健康寿命」の延伸</p> <p>③ 医療関連産業の活性化により、必要な世界性先端の医療等が受けられる社会</p>
健康・医療戦略	平成25年6月14日	<p>1. 新技術の創出（研究開発、実用化）</p> <p>（1）政府部門における研究開発の推進と重点化</p> <p>2）医療分野の研究開発に関する総合戦略の策定及び研究開発の推進</p> <p>②研究開発の推進</p>

		<p>4) 研究開発の推進体制の整備  ②医薬品・医療機器の開発支援体制の強化  6) 世界最先端の医療の実現に向けた取組と希少疾病や難病等のアンメットメディカルニーズへの対応  ①再生医療の実用化</p> <p>2. 新サービスの創出（健康寿命伸長産業の創出）  (1) EBM（エビデンス）に基づく予防技術・サービス手法の開発  (2) 技術や手法を核とする具体的サービスの創出  ③ロボット介護機器の研究開発・導入促進</p> <p>3. 新技術・サービスの基盤整備  (1) 人的資源の活用、人材育成  ②既存の次号に埋もれている人的資源、可能性の追求。人材の流動化</p> <p>4. 医療技術・サービスの国際展開  (1) 国際医療協力の枠組みの構築  (2) 一般社団法人 MEJ を中核組織とする具体的な国際医療事業の推進</p>
科学技術イノベーション 総合戦略	平成 25 年 6 月 7 日	<p>第 2 章 科学技術イノベーションが取り組むべき課題  II. 国際社会の先駆けとなる健康長寿社会の実現  IV. 地域資源を‘強み’とした地域の再生</p>
政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報		
-		

評価実施予定時期	平成 27 年度・平成 28 年度
----------	-------------------

主管課（課長名）	研究振興局 ライフサイエンス課（堀内 義規）
関係課（課長名）	研究振興局 研究振興戦略官（阿蘇 隆之）